

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	地理学 B		
英文授業科目名	Geography B		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	2、4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三宅 紀治		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>(a)主題： 我が国の都市は、これまで様々な社会的背景のもとで発達・変化してきたが、本来の姿からすれば未解決の問題も多い。この授業ではその社会的・歴史的背景を学び、都市の現況がどのような状況にあり、またどのような課題をもっているのかを主題として取り上げる。</p> <p>(b)達成目標： 私達が今後都市問題を考える上で、必要な基礎知識を身につけることを目標とする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし。

【教科書等】
授業中配布する資料以外になし。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【授業内容とその進め方】

上記主題および達成目標から、次のような内容・進め方とする。

- ・イントロダクション：この授業の概要や位置づけなどを説明。
- ・都市の土地形成：江戸時代から現在までの都市の土地がどのように形成されてきたのかを、東京の下町・臨海部などを例として取り上げ、当時の社会的背景を含めてその目的・方法について解説する。
- ・我が国の社会資本の現況と課題：都市の発展に欠かせない社会資本に関して、社会資本整備の意義、歴史、先進諸外国との比較や国際競争力からみた我が国の社会資本整備の状況、都市再生との関係で今後の社会資本のあり方などについて具体的な事例を取り上げて解説する。
- ・身近な都市空間と課題：最近では地域ごとに個性を活かしたまちづくりのほか都市空間の中でも自然環境の復元などが進み、快適環境が比較的手近に得られるようになってきた。これらを含み、現場に行けば誰でも目にすることができる身近な都市空間と課題について事例を取り上げ解説する。
- ・都市活動に伴う負の環境問題：現在の都市がかかえる負の環境問題として、都市活動の結果発生する廃棄物処理、ヒートアイランドなどの環境負荷、負の遺産としての地下水・土壌汚染などについて説明する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法

それまでの授業内容から授業中に3回のレポート作成、ならびに12月に提示するテーマについて1回の課題レポートの提出を課し、これらから次のように総合評価する。

成績評価 = (授業中レポートの評価点 × 50%) + (課題レポート × 50%)

(b)評価基準

授業中レポートでは授業内容の理解と自らの意見を提示できていること、課題レポートでは提出が不可欠であり出題意図を理解した上でのレポート内容の的確性が、合格の最低基準になる。課題レポート提出のみあるいは授業中レポートのみでは合格しない。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は授業後や非常勤講師室のメールボックスで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

特になし。

【その他】